



慶安女子記卷十三



江戸の事

の事

7

田代

慶安五年日記卷之十二

- 一 由井の事
- 一 三浦長の事
- 一 長門守殿の事
- 一 山名門下結浪人の事
- 一 正倉運送の事

山崎平右衛門治と存心

之程山崎正右衛門治と存心は平天正あり之數は阿
比岐し史の業あり事と申らん一時の事と伺ふに
天下を治むの事して四河原を治むるを平天正と
と存心の時いふは存心と申らんこれに治むるは平
右衛門正右衛門治と存心と治むる全知書卷として
治むる事ありと云ふ事と申したる事これに治むるは
して今も世に存心と申らん此の時存心ありと
ごり付と存心と申らん此の時存心ありと申らん
平右衛門の存心と申らん此の時存心ありと申らん

有きれども橋本宿しと見せしむるにいつりて佐藤忠孝
志きん申力て道に起むと許すともやと申す歌川
中ノ端毎邊遊んたり佐藤忠孝は佐藤家のまはるるに
口よあて外庭に起す切落しをんたる白中を登りて
橋本宿しいつりて志きんもあはさしと申す道に
和守子とまゐるる佐藤しるす洗洗しんと云ふ又
し我の浮年法陰に陣を敷き目日本あてたる
家道は法本支知盤なり判知盤に下知佐藤柳
あてあしたる官女目と起し府子のまことちと申す
陰に形原申す振具母原申すたの九原申す是
と申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
まゝと申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
云ふと申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
村長申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
家道申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
是後一人得彼と云ふと申すらうと云はれし佐藤忠孝
と申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
れども申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
と申すらうと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝
りうれと云はれし佐藤忠孝のいふに佐藤忠孝

いおまが先^つ以^ちやもるらぬ遠^くなりとまるとか入^り案^を
向^きと見^え見^えとわねむ波^の風^ととま^りくして流^れるはつん^の流^れ的^な
こととらるるを^れむ^し美^し一^毛と射^換とらば^は我^の見^え
生死^ととら^いら^は中^の那^の理^の現^をとら^まく^は我^の見^え
を射^換とらば^はあ^らむ^はむ^しと再^びゆ^わい^は海^の生^の何^の的^な
りや^と中^のあ^の飛^の目^とむ^しと^はな^らば波^の風^の勢^の的^な
ま^りゆ^わい^はれ^たと^ら方^と方^と行^なつ^て夫^の何^のや^もく^はも^の解^を
ゆ^わい^はれ^たと^ら射^換とら^まく^は勢^のと^らま^りと^は同^じく^は目^とと^らむ^は
汁^とは^なら^ずも^の流^れ流^れは^なら^ずも^の市^のゆ^わい^はれ^たと^ら推^す
美^の風^の勢^の的^なと^らま^りと^は名^の風^とと^らま^りと^は代^の流^れ
係^の的^なと^ら射^換とら^まく^は流^れ流^れと^らま^りと^は世^の的^な
係^の的^なと^ら射^換とら^まく^は其^の先^と射^換とら^まく^は目^とと^らむ^は
射^換とら^まく^は天^の飛^の目^とと^らま^りと^は又^は流^れ流^れと^らま^りと^は射^換とら^まく^は
二^の端^とゆ^わい^はれ^たと^ら然^れむ^は射^換とら^まく^は其^の解^を
と^らむ^は目^とと^らむ^は流^れ流^れと^らま^りと^は二^の端^とゆ^わい^はれ^た
先^とゆ^わい^はれ^たと^ら利^のと^らむ^は極^の理^とと^らま^りと^は其^の後^と市^の流^れ
病^とと^らむ^は今^のあ^のわ^りて^は那^の理^とと^らま^りと^はあ^の市^の流^れと^らま^りと^は并^に
も^の理^とと^らま^りと^は極^の理^とと^らま^りと^は極^の理^とと^らま^りと^は極^の理^とと^らま^り
ふ^の折^の理^とと^らま^りと^は是^の理^とと^らま^りと^は是^の理^とと^らま^りと^は是^の理^とと^らま^り
も^の理^とと^らま^りと^は是^の理^とと^らま^りと^は是^の理^とと^らま^りと^は是^の理^とと^らま^り

とたのうらふともやらぬかたの御事か御事か利の極ゆる又新
徳之保^{はな}にまがしむと証せし之保言はぬ事信と致し
たにおおれてかたの少くもとて入退に事信違を之保刑
法がまてる地を去る所を掘りて後には保言を多く遊
まんてあつてはもをいやして口をぬきさすむと板のしぢぢぢ
左をさつて退^ひきまらざるもてと海が腹^{うた}首にほくの
さしよもくわいの事信は保言言が首首つとまをれいと
腹をあらひ誓ひて左へ引別するとの信言を九とむき
といかんらあつてふのぞ地まじり致さるの只勝事と致し
りよ保言をたのむおとしるばあに指保とぬしして何と遊
る事申すこと申言せんや事信あるらぬおつて又事信と
うごも遊言を言は保言言らるる取事何と信言や左從
をまじり致さるるを地とて保言長かき保言めあは
あつて言ひ言ひ言ひ保言言め事信言も言あつて何事
事信言^わしなつて言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ
といへといへといへ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ保
の言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言
言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言
言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言
言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言
言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言
言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言

河原光正の事南に居て其の母より言ふに此の後の全列
此の編に成向後世は法に止る事なれども其の相承紀列に其
其林の事等より海を以て其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
角向後世は法に成りて其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
如え相承紀列に其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
頃以て其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
外一編に其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
し其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
る也其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
と其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
利日也其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
是の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其
其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其

正徳門 文並 正徳門の人

其の事も言ふ事なれども其の相承紀列に其

ある道しし五福なりと為福は萬一は福の返りては福の位も
永のまゝ馬の形に九座の人味用たはたの金井も清徳を
ふも清徳は作他人の味方な馬の富の如くは玉田の如くは
清徳のたる新の所首行は成りて来て十の人の如く
地味なり正名なりともこの神符奉るたをて今をた下
にまゝと見ても申すは中と申すは天下の如くは
此の如くは且に信りては名も成りて内なるは如くは
こすむるしは十一年今も其の如くは送るはれは
と成りて申すは中と申すは今も全向後相止なり
と云ふにお意しぬは申すは行の如くは

列のりし者な奥の是れも之れなりて人を何とある者なり
新の居居ては申すは申すは申すは申すは申すは申すは
ては神の如くは申すは申すは申すは申すは申すは申すは
は申すは申すは申すは申すは申すは申すは申すは申すは
一命なりと申すは申すは申すは申すは申すは申すは申すは
此も又て申すは申すは申すは申すは申すは申すは申すは
何十年成りたるは申すは申すは申すは申すは申すは申すは
名も申すは申すは申すは申すは申すは申すは申すは申すは
と云ふは申すは申すは申すは申すは申すは申すは申すは

心危切にも遠く申すし大方心で破るんとすし
申す所り元途が跡とて遊ぶ屋多きを思ふと
心危切にも遠く感し悦びなきをこそ思ふれ
其要を左平記巻にすし終り

慶安右平記巻にすし

- 一 西名軍規大責にす
- 一 松平作良と殿君の御ん
- 一 正名道まじ権山まじの御人まじ
- 一 忠誠傳まじの御人まじ

甚し肩^ツ中^ツのむちのひきげ^ツ座^ツをま^ツつたま^ツの如く^ツ怒^ツる^ツを
田舎井^ツ物^ツ飛^ツぬ大^ツ好^ツい^ツま^ツき^ツる^ツ女^ツの^ツ理^ツ由^ツ陣^ツ情^ツ
若^ツし^ツら^ツ者^ツ忠^ツ信^ツづ^ツら^ツる^ツの^ツ別^ツを^ツ芝^ツ田^ツ軍^ツ師^ツと^ツ別^ツして
荒^ツや^ツう^ツぬ^ツあ^ツら^ツ之^ツ忠^ツ信^ツづ^ツら^ツる^ツ由^ツ由^ツ正^ツ者^ツ磨^ツ子^ツ取^ツテ^ツカ^ツ知^ツ乱
ろ^ツろ^ツと^ツ事^ツを^ツ余^ツ人^ツと^ツ情^ツを^ツ引^ツ平^ツし^ツ後^ツ成^ツる^ツ向^ツ也^ツに^ツ在^ツ田^ツ金
井^ツと^ツち^ツ取^ツら^ツる^ツ聖^ツ徳^ツ尊^ツ旨^ツい^ツ事^ツ成^ツし^ツる^ツ也^ツなり^ツ名^ツ福^ツ芝
田^ツの^ツ評^ツを^ツ表^ツす^ツ所^ツなる^ツ高^ツ長^ツ軍^ツ勢^ツが^ツ十^ツ八^ツ百^ツに^ツ成^ツり^ツ人
は^ツ将^ツ軍^ツと^ツして^ツ死^ツす^ツ所^ツを^ツ信^ツず^ツら^ツる^ツ也^ツなり^ツ今^ツも^ツ兵^ツ者^ツ
死^ツす^ツ所^ツを^ツ信^ツず^ツら^ツる^ツ也^ツなり^ツ今^ツも^ツ兵^ツ者^ツ
名^ツを^ツ得^ツる^ツ所^ツを^ツ信^ツず^ツら^ツる^ツ也^ツなり^ツ今^ツも^ツ兵^ツ者^ツ

此書に方向ありき事御取らるる者も高所あり

たは信儀をらとがらあり

聖旨も亦知とる所聖旨をら取らるる也^ツ田^ツ金^ツ井^ツと^ツち^ツ取^ツ
らる^ツ所^ツにして^ツ事^ツ成^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ正^ツ者^ツ方^ツ入^ツ事^ツ金^ツと^ツして^ツ
二^ツ事^ツあ^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ如^ツく^ツ事^ツ成^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ和^ツ衆^ツ也^ツ
今^ツも^ツ事^ツを^ツ余^ツ人^ツと^ツ情^ツを^ツ引^ツ平^ツし^ツ後^ツ成^ツる^ツ向^ツ也^ツに^ツ在^ツ
田^ツ金^ツ井^ツと^ツち^ツ取^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ如^ツく^ツ事^ツ成^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ和^ツ衆^ツ也^ツ
今^ツも^ツ事^ツを^ツ余^ツ人^ツと^ツ情^ツを^ツ引^ツ平^ツし^ツ後^ツ成^ツる^ツ向^ツ也^ツに^ツ在^ツ
田^ツ金^ツ井^ツと^ツち^ツ取^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ如^ツく^ツ事^ツ成^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ和^ツ衆^ツ也^ツ
今^ツも^ツ事^ツを^ツ余^ツ人^ツと^ツ情^ツを^ツ引^ツ平^ツし^ツ後^ツ成^ツる^ツ向^ツ也^ツに^ツ在^ツ
田^ツ金^ツ井^ツと^ツち^ツ取^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ如^ツく^ツ事^ツ成^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ和^ツ衆^ツ也^ツ
今^ツも^ツ事^ツを^ツ余^ツ人^ツと^ツ情^ツを^ツ引^ツ平^ツし^ツ後^ツ成^ツる^ツ向^ツ也^ツに^ツ在^ツ
田^ツ金^ツ井^ツと^ツち^ツ取^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ如^ツく^ツ事^ツ成^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ和^ツ衆^ツ也^ツ
今^ツも^ツ事^ツを^ツ余^ツ人^ツと^ツ情^ツを^ツ引^ツ平^ツし^ツ後^ツ成^ツる^ツ向^ツ也^ツに^ツ在^ツ
田^ツ金^ツ井^ツと^ツち^ツ取^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ如^ツく^ツ事^ツ成^ツら^ツる^ツ所^ツも^ツ和^ツ衆^ツ也^ツ

久しとて史の事ありて是れは當今を以て論ずるが如し
東渡して調子ありては余の事なるも是れは當今を以て論ずるが如し
孔何と進まざるに其意を正ししに也
を徳と七月十二日自願して死す
信しき事なる事也
る事也
少中女也
浪の事也

後忠臣傳を以ては其の事なるが如し
地也
痛疾に
之事
は事
之事
之事
之事
之事

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written vertically on the right page. The text is dense and fills most of the page.

止

田園佐之助

与

Handwritten text on the left page, including the characters "年" (year) and "目" (eye/sight), possibly indicating a date or a specific reference.

